

会員の活動報告、修士論文題目、後記、会則、奥付

雑誌名	仏語仏文学
巻	31
ページ	175-180
発行年	2004-02-28
URL	http://hdl.handle.net/10112/00017302

会員の活動報告

(2002年11月～2003年10月)

栗野広雅

- ・ソメーズの *Le Procès des Précieuses* について (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・才女の功罪について (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表, 2002年12月)

伊川 徹

- ・雑誌連載: 初級文法のポイント9～12 (『ふらんす』白水社, 2002年11月～2003年2月)
- ・『町人貴族』と『病は気から』の間にあるもの (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・崖っ淵のフランス語をどう救うか? (*RENCONTRES 17*, Rencontres Pédagogiques du Kansai, 2003年7月)
- ・シンポジウム「17・18世紀のフランス文学と思想」のパネリスト (関西大学フランス語フランス文学会, 2002年12月)
- ・Comment enseigner aux motivés zéro? (第17回関西フランス語教育研究会口頭発表, 於大阪日仏センター＝アリアンス・フランセーズ, 2003年3月)

伊地智 均

- ・*Le Cid* における恋愛と名誉 (関西大学『文学論集』第52巻第4号, 2003年3月)

伊藤誠宏

- ・《*L'Astrée* (第一部)》における現在分詞の一致 — ayant と étant — (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・『若者の感性とリスク』 — ベネフィットからリスクを考える — (共著) (北大路書房, 2003年10月)
- ・原子力発電に対する賛否と評価変動性 (日本社会心理学会第43回大会口頭発表, 於一橋大学, 2002年11月)

大久保朝憲

- ・雑誌連載: ことばのざわめき ことばのひらめき (『ふらんす』白水社, 2003年4月号～2004年3月号)
- ・Enoncés extrémistes et énoncés tristes — polyphonie entre le sujet et le

prédictat. (単著) (Dialogisme et nomination — colloque jeunes chercheurs en sciences du langage, Université Paul Valéry — Montpellier III, 2003年3月)

- ・自明の発話と極限的発話(日本フランス語学会第208回例会, 於獨協大学, 2003年5月)

近江康則

- ・Les Trésors du Musée Sankôkan (24) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No. 49, 2002年11月)
- ・Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (25) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No. 50, 2003年2月)
- ・私の本棚：フランス・ルネッサンスの人々 (奈良新聞朝刊, 2003年3月)
- ・Les Trésors du Musée Sankôkan (25) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No. 51, 2003年5月)
- ・私の本棚：フランス語とフランス人気質 (奈良新聞朝刊, 2003年6月)
- ・Les Trésors de la Bibliothèque de Tenri (26) (Bulletin Trimestriel TENRIKYO No. 52, 2003年8月)

柏木 治

- ・『リュシアン・ルーヴェン』における「未決定」の諸相 (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・ヨーロッパの祭りたち(共編) (明石書店, 2003年4月)

神垣享介

- ・アルベール・カミュの「客」について—教師と生徒の関係を中心として— (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

笹倉塩子

- ・Étude de la paronymie dans les jeux de langage à travers les traductions françaises de *Alice's Adventures in Wonderland* (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

新家かつら

- ・ハイネの『アッタ・トロール』とバンヴィル (ファンテジーをめぐって) (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

関谷一彦

- ・ *La sorcière au XVIII^e siècle en France*, (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・ シンポジウム「17・18世紀のフランス文学と思想」のパネリスト (関西大学フランス語フランス文学会, 2002年12月)
- ・ エロティシズムとまなざし (関西大学フランス語フランス文学会口頭発表, 2002年12月)
- ・ *La lecture de Sade au Japon : la question de l'obscénité d'après le proces Shibusawa/Ishii(1961)*, (Premier Colloque International Sade en Amérique du Nord, 於 College of Charleston aux Etats-Unis, 2003年3月)

武本雅嗣

- ・ 概念化と構文拡張—中心的与格構文から周辺的与格構文へ(『シリーズ言語科学4 対照言語学』生越直樹(編), 東京大学出版会, pp.99-122, 2002年11月)

太治和子

- ・ *À propos du futur antérieur (Information grammaticale, 2003年3月)*
- ・ 推測を表す単純未来について (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

田中寛一

- ・ ミシェル・フーコーとフェミニスト (奈良新聞, 2002年11月)
- ・ 《フェミニスト》としてのミシェル・フーコー (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

中所聖一

- ・ サルトルにおける〈死〉と〈偶然〉のモラル (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

友谷知己

- ・ *L'amour de Néron dans Britannicus* (『早稲田フランス語フランス文学論集』Etudes françaises, n°10, 2003年3月)
- ・ 『アタリー』の神解釈 (第120回パスカル研究会口頭発表, 於早稲田大学, 2002年11月)

内藤義博

- ・ ルソーにおける音楽模倣論と言語の起源 (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)
- ・ フランス・オペラの誕生—その1—(『りべるたす』第16号, 2002年12月)

平田重和

- ・アルベール・カミュの文学と思想—文学的アンガージュマンの視点から—(関西大学博士(文学)取得論文, 2003年9月)

本田忠雄

- ・Marie de FRANCE の *Lais* における愛の諸相 (『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

山川清太郎

- ・Vicror Hugo の語彙について ～Lamartine, Vigny, Musset との語彙比較を通して～(『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

山村嘉己

- ・はじめて学ぶフランス文学史—文学史を編むとはどういうことか—(『仏語 仏文学』第30号, 2003年2月)

修士論文題目

2003年3月

竹田 悠 『死体派』—対独協力と文学性をめぐって

後 記

わが国の大学をめぐる環境の変化は近年とくに著しく、絶え間なく寄せては返す改革の大波に、ともすればわれわれは自身を見失うのではないかと不安を覚えることすらある。しかし、その間にも本誌『仏語 仏文学』は毎年号数を重ね、ここに31号を刊行するはこびとなった。発刊以来、そこには本学フランス語フランス文学科の半世紀以上にも及ぶ歴史が刻み込まれている。長年親しんできたこの学科名称も今年4月から「フランス語フランス文学専修」に改められる。これも少子化に伴う教育環境の変貌に柔軟に対応するための施策の一環ではあるが、名称が変われども、内容はますます充実させなければならないことは言うまでもない。

昨年3月に定年で退職された伊地智教授と入れ替わりに、新進気鋭の学究、友谷知己氏が4月に着任された。来る人もあれば去る人もあるというのが世の常である。本年も3月末に本学会の会長で、40年近く本学にて教鞭をとってこられた円尾 健教授が定年で退職される。欧州諸言語に通じておられる円尾教授をここでお送りしなければならないことは誠にもって残念という他はない。同教授のご健勝といっそうのご活躍を祈念する次第である。

* * *

本学会の2003年度研究発表会ならびに総会は12月20日13時30分から本学 AV-B 教室にて開催された。今回は4名の会員の研究発表があり、いずれも現代社会の動向と何らかの関連性がある興味深い研究であった。それぞれの発表に対して活発な質疑応答が繰り返され、出席者一同は有意義な午後を過ごすことができたと思える。発表者名及び題目は以下に示すとおりである。

1. セリーヌとアフリカ、『夜の果てへの旅』のアフリカでのエピソード
をめぐって

本学大学院博士後期課程 竹田 悠 氏

2. プルースト的触覚

奈良大学助教授 田中 良 氏

3. カミュの戯曲『正義の人々』 *Les Justes* 再読

本学教授 平田 重和 氏

4. P. コルネーユとフェミニズム批評

— *Le Cid* と *Horace* を中心に —

元本学教授 伊地智 均 氏

引き続き総会が開かれ、3月に退任される円尾 健会長に代わり、平田重和教授が4月から新たに会長に就任されることが可決された。また会則の件、会計報告などもすべて原案どおりに承認され、16時30分閉会となった。レストラン「一休」での懇親会は例年に比べ出席者が少なめではあったが、存分のご馳走と飲み物に一同満足して会場を後にした。

(本田 忠雄)

関西大学フランス語フランス文学会々則

1. 本会は関西大学フランス語フランス文学会 (Société de Langue et Littérature Françaises de l'Université Kansai/Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) と称し、事務所を関西大学文学部フランス語フランス文学科合同研究室に置く。
2. 本会はフランス語フランス文学に関する研究および発表と、これに関連する事業を行なうことを目的とする。
3. 本会は次の事業を行なう。
 1. 機関誌「仏語 仏文学」(Bulletin de la Société de Langue et Littérature Françaises de l'Université Kansai/The Bulletin of Kansai University Society for the Study of French Language and Literature) およびその他の出版物の刊行
 2. 研究会・講演会の開催
 3. その他本会の目的にかなう事業
4. 本会はその目的に賛同する次の会員をもって構成する。
 1. 関西大学文学部フランス語フランス文学科専任教員
 2. 関西大学大学院文学研究科フランス文学専攻学生、およびその卒業生
 3. 関西大学文学部フランス語フランス文学科学生、およびその卒業生(旧学科名称関西大学文学部フランス文学科の学生、およびその卒業生を含む)
 4. 本会の趣旨に賛同し、入会を認められたもの
5. 本会の目的を達成するため会費を納入する。
6. 本会に次の役員を置く。その任期は1年とし、重任を妨げない。
 1. 会長 1名
 2. 委員 若干名
 - a. 企画委員
 - b. 編集委員
 - c. 庶務・会計委員会長と委員によって委員会を構成し本会の実務の運用に当り会長はこれを統括する。
7. 会員は機関誌「仏語 仏文学」等の配布をうける。また会員は機関誌への投稿、および本会の行なう事業に参加することができる。なお、投稿論文は、会則6.に定める委員会の議を経て掲載される。
8. 本会の重要事項は総会の議決による。

(2001年4月1日から施行)

仏語 仏文学 第31号

2004年2月28日発行

編集・発行 関西大学フランス語フランス文学会
吹田市山手町 関西大学
フランス語フランス文学研究室

印刷所 株式会社 高速オフセット
大阪市北区梅田3丁目4番5号 (毎日新聞ビル6F)
電話 (06) 6346-2800 (代)

(非売品)